

The Rotary Club of Sapporo Odori Park

札幌大通公園ロータリークラブ
ライラック通信(2009/6/22号)

会長 大坂忠 幹事 高橋宏

第347回例会報告(2009年6月15日)

- ・本年度の会長、幹事、各奉仕委員会委員長による活動報告がありました。
- ・ほぼ計画どおりに遂行され、目標を達成していました。次年度以降も頑張りましょう。

第348回例会予定(2009年6月22日)

- ・次年度各奉仕委員会委員長による活動予定報告

第349回例会予定(2009年6月29日)

- ・会長・幹事慰労会

環境問題基礎知識(第40回:環境問題活動の難しさ)

1970年代半ばから、全国的にサケの放流が流行しました。野生のサケが生息できる太平洋側の南限は利根川だと言われており、それ以南の川では、たまに迷いサケが川を遡上することがあるだけです。

しかし、実際には利根川以南の川で、今でも環境や自然保護を謳った市民団体が毎年何十万匹ものサケの稚魚の放流を行っています。そのような市民団体もサケの生息南限を知らないわけではありません。実際には帰ってくるはずのない稚魚を放流していることを認識していることが多いのです。すなわち、殺すために放流していることを認識しているのです。何故そのようなことをするのでしょうか。

市民団体の言い分は、子どもへの教育効果であるとか、放流したあとに、サケが帰ってこれるようにしないとねと、子どもたちと一緒に川の周りの掃除をするというものです。問題意識を持つのが重要だという立場です。

しかし、川のゴミ拾い等は、放流した直後には行っているようですが、その後は恒常的に行っているわけでもない団体が多数です。

最近では市民からの批判によりサケを放流していた団体が解散することもあったようです。

環境問題活動の本質は人間のエゴを考え直そうというものです。人間のエゴで環境問題活動をしている以上は、真の環境問題活動とは言えません。